

I. 教員養成の目標及び計画について

本学の教員養成は地域の人材を育成するという教育の目的に基づいて設置しています。

学校教員とは、最も地域と密接なかかわりを持ちながら職務に従事する職業の一つであり、地域と共に歩み続け、未来の地域人材の育成に直接的に携わる、重要な地域人材を育成するという目的に基づいています。

いつの時代にも教員に求められる資質能力としての5項目（「教育者としての使命感」「人間の成長・発達についての深い理解」「幼児・児童・生徒に対する教育的愛情」「教科等に関する専門的知識」「広く豊かな教養」）に、今後特に求められる3項目（「地球的視野に立って行動するための資質能力」「変化の時代を生きる社会人に求められる資質能力」「教員の職務から必然的に求められる資質能力」）を加え、さらに地域に根ざした教育活動をより一層充実させることをとおして、質の高さと知見の広さを兼ねそなえ、地域と共に歩むことのできる教員養成に取り組んでいます。

ー各学年における到達目標ー

●中学校免許（社会・英語）および高校免許（地歴・公民・英語）

1 年次 前期

【教職像を豊かでリアルなものとするセクション】

「教職論」を通し、

- ①教職の内容や役割、教師の使命や職責について理解できること。
- ②教職の醍醐味やその抱えている課題について認識すること。
- ③教職に関する法令等の理解を通し、その服務について認識すること

後期

【教育内容の系統と構造、発達・学習理論を把握するセクション】

「教育課程論」を通し、教育課程の変遷および枠組み、教育課程を編成する方法原理を把握する。

「教育と心理」では、発達理論、学習理論などの心理学研究を概観することによって、発達心理学・教育心理学に対する基本的な知識を身につけること。

2 年次 前期

【教育と人間、生徒理解の基本原則を認識するセクション】

「教育と人間」を通して、人間にとっての「教育」の意味について考察できること。

「生徒指導論」「教育相談論」では、生徒理解を深め、生徒指導の方法を理解する。

「介護等体験」を通し、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深める。

後期

【学校教育の制度および教育実践の基本的枠組みや技法を習得するセッション】

「教育と社会」を通して、教育小六法の内容を理解するなかで教育制度について認識し、教育問題を読み解く力を獲得すること。「教育方法・技術」では、教育実践の技法（教育評価や情報機器の操作法を含む）や問題への対処法を習得する。

3 年次 前期

【基礎的な授業構想力を身につけるセッション】

教科「教育法」、「道德教育の研究」（中免）を通して、学習指導要領に規定されている内容を理解したうえで学習指導案を作成し、模擬授業や授業検討を行うことによって授業を具体的に計画し、実践できる力を身につけること。

「学校フィールド学習」（選択）を通して、学校現場を把握し、学習支援を行なう。

後期

【教育実践に必要な基礎力を身につけるセッション】

「共生の教育」や「特別活動・学級経営論」、「教育実習事前事後指導」における授業参観等を通して、教育実践に必要な力が何かを理解し、学級経営や保護者との連携・協力の基礎を理解できること。

4 年次 前期

【教職に必要な実践力を身につけるセッション】

中等の「教育実習」を通して、

- ①観察実習、教壇実習を行うことによって専門とする教科の授業づくりの方法を学ぶこと。
- ②教師と生徒との関係性や生徒理解に努めること。
- ③教職に関する法令遵守や適性・態度など実践的な教育力を理解し身につけること。

後期

【教職に必要な資質・能力を補充するセッション】

「教職実践演習」の時間を通して、大学での学びと「教育実習」等の教育現場における実践的な体験や学びを振り返ることによって、自分に不足している教員として必要な資質・能力を発見し、補充することによって教育実践力をバランスよく身につけること。

●小学校免許

1 年次 前期

【教職像を豊かでリアルなものとし意欲を向上させるセッション】

「教職論」を通して、教職への熱意を確認し、教職への夢と希望を膨らませる。

また、「初等教科概説」と各教科の概説を通して、小学校の教育内容の理解に努める。

後期

【教育内容の系統と構造、発達・学習理論を把握するセッション】

「教育課程論」「教育と心理」を通して、教育に関する理解を深め、教職への確固たる志望を固める。

また、各教科の概説を通して学習指導要領や小学校の教育内容についての理解を深める。

2 年次 前期

【教育と人間、児童理解の基本原則を認識し、教育の現場の現状を学ぶセッション】

「教育と人間」「生徒指導論」「教育相談論」や実践的な「学校フィールド学習」を通して児童理解に努め、学校教育の基本を理解する。また、各教科の「教育法」を通して教育方法や指導法の理解に努め、学習指導の力を身に付けていく。

後期

【学校教育の制度および教育実践の基本的枠組みや技法を習得し、教育現場の実態を理解する】

「教育と社会」「教育方法・技術」「道德教育の研究」を通して学校現場の理解を深める。

また、各教科の「教育法」を通して教育方法や指導法の理解を深め、学習指導の力を身に付ける。

3 年次 前期

【教職に必要な基礎的な力と授業構想力を身に付けるセッション】

「課題演習」や「教育実習事前事後指導」等を通して、課題解決能力を向上させる。

「教育実習」を通して、授業構想力や実践的な教育力を身に付けていく。

後期

【教育実践に必要な基礎力と実践力を身につけるセッション】

「初等国語実践演習」「初等理科実践演習」「共生の教育」「特別活動・学級経営論」「介護等体験」や授業見学を通して、教育実践力の理解に努め、身に付けた実践力を生かして、学級経営の基礎技術や保護者との連携・協力の仕方を学修する。

4 年次 前期

【教職に必要な実践力を身につけるとともに教職に必要な資質・能力を補充するセクション】

3年間の学修を振り返るとともに、「教育実習」の反省をおこない、自らの不足している力を発見して、身に付ける努力をする。

後期

【教職に必要な資質・能力を再考し、自らに足りない力を補充するセクション】

「教職実践演習」を通して、これまでの学修について振り返るとともに、自らの不足部分を発見して補い、さらなる高みをめざし教育実践力をバランスよく身に付けていく努力をする。

●幼稚園免許

1年次 前期

- ・幼稚園教育要領における幼稚園の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
- ・各領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
- ・幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
- ・領域ごとに幼児が経験し、身に付けていく内容の関連性や小学校教科等とのつながりを理解している。
- ・遊びを通しての総合的な指導の意義と教師の役割について説明できる。
- ・教員としての必要な教養や基礎技能を身に付けている。
- ・ピアノの基礎的知識・技能を身に付け、音楽表現をすることができる。

後期

- ・教員としての必要な教養や基礎技能を身に付けている。
- ・実技向上に向け主体的に練習を行い、レパートリーの獲得を図ることができる。
- ・様々な実技を通して実践力を高めるとともに幼児への指導方法を理解している。

2年次 前期

- ・幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
- ・各領域の特性や幼児の体験と関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
- ・指導案の構成を理解し、具体的な保育を構想した指導案を作成することができる。
- ・模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
- ・各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。
- ・教育の思想や歴史的変遷、教育制度について学び、教育の基本的概念を身に付けている。
- ・乳幼児期から青年期の各時期における発達について、その具体的な内容を理解している。
- ・教育実習生として、遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
- ・不安や悩みを抱えた子どもや保育者に寄り添うための教育相談の意義や目的が説明できる。

後期

- ・教職の意義、教員の役割、職務内容、社会的な動向と教育の関り及び教育制度について理解している。
- ・幼児との関りを通して、その実態や課題を把握することができる。
- ・育みたい力資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考えを理解している。
- ・子どもたちの興味・関心を高めたり学習内容を振り返ったりするために、幼児の体験と関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。
- ・幼児の遊び及び生活の実態に即した幼児理解の意義を理解している。

3 年次 前期

- ・教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。
- ・教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、習得することが必要な知識や技能等を理解している。
- ・身体感覚を自覚的に把握し、基礎的な運動技能を獲得できる。
- ・幼児理解や学びの振り返りに等、ICT を積極的に活用することができる。

後期

- ・教育課程や全体的な計画の意義と役割、編成の方法を理解している。
- ・インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の理念や仕組みを理解している。
- ・幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。
- ・様々な活動の場面で適切に幼児と関わるができる。
- ・教育実習の総括と自己評価を行い、課題解決に向けて取り組むことができる。
- ・保育者として、幼児に楽しく変わりやすく運動を指導できる。

4 年次 前期

- ・幼児に関する理論や実践の場を通して、幼児やその教育に関わる理解を深める。
- ・保護者や地域との連携を強化し、子どもの健全な成長を支える教育活動を実践することができる。

後期

- ・保育に必要な基礎的技術を身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。
- ・将来の教師としての自己認識と自己形成力を深める。
- ・幼児教育の最新の研究動向を理解し、幼児の心理や教育に関して一段と理解を深める。